

# 令和4年度温室効果ガス排出量実績（報告）

## 1. 温室効果ガス排出量

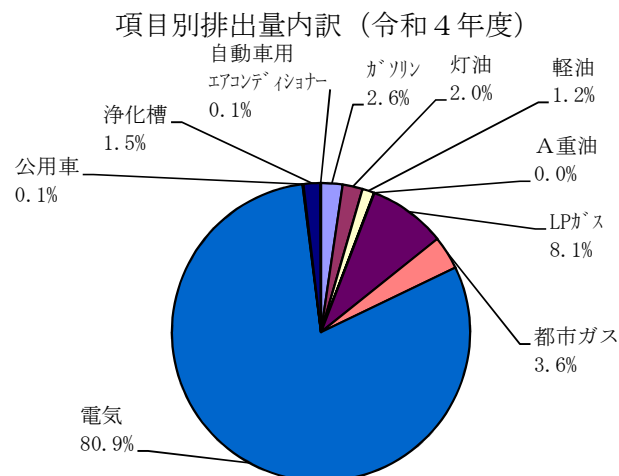
令和4年度における洲本市地球温暖化対策実行計画に基づいた事務及び事業に伴い排出された活動量及び温室効果ガス排出量は、次のとおりとなっています。

調査項目	単位	活動量			温室効果ガス排出量 (kg-CO2)					
		平成29年度 (基準年度)	令和4年度	平成29年度比	平成29年度 (基準年度)	令和4年度	平成29年度比	令和4年度 構成比	増減率	
燃料使用量	ガソリン	L	57,076.6	47,178.9	-9,897.7	132,415.70	109,452.80	-22,962.90	2.6%	-17.3%
	灯油	L	40,959.6	34,546.0	-6,413.6	102,054.50	86,064.34	-15,990.16	2.0%	-15.7%
	軽油	L	18,753.5	19,831.2	1,077.7	48,389.56	51,164.00	2,774.44	1.2%	5.7%
	A重油	L	900.0	600.0	-300.0	2,453.90	1,634.94	-818.96	0.0%	-33.4%
	LPガス	kg	47,262.4	114,727.0	67,464.6	141,899.99	347,003.78	205,103.79	8.1%	244.5%
	都市ガス	m <sup>3</sup>	87,604.0	70,029.8	-17,574.2	192,023.54	153,319.59	-38,703.95	3.6%	-20.2%
電気使用量		kWh	7,340,604.9	6,803,275.5	-537,329.4	3,745,823.60	3,469,659.50	-276,164.10	80.9%	-7.4%
公用車の走行量		km	710,891.3	663,480.0	-47,411.3	4,976.77	4,563.47	-413.30	0.1%	-8.3%
浄化槽によるし尿及び雑排水の処理		人	3,970.0	2,970.0	-1,000.0	92,722.03	64,097.28	-28,624.75	1.5%	-30.9%
自動車用エアコンディショナーの使用		台	179.0	206.0	27.0	2,559.70	2,945.80	386.10	0.1%	15.1%
合計					4,465,319.29	4,289,905.50	-175,413.79	100.0%	-3.9%	

項目別構成比

令和4年度の温室効果ガス排出量合計では、対基準年度比**3.9%の減少**となっています。

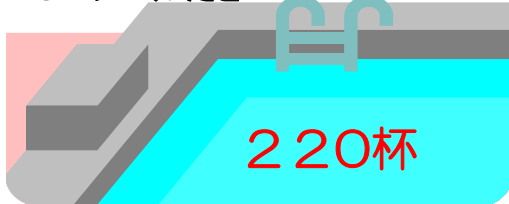
電気使用量による温室効果ガス排出量が全体の**80.9%**を占め、燃料全体（ガソリン、灯油、軽油等）の割合が**17.5%**となっています。



対基準年度比の削減量

175,413.79 kg-CO2 とは、

25mプールだと



※1kg-CO2=0.509m3

※25mプール容積 25m\*13m\*1.25m=406.3m3

吉野杉が1年間に吸収する二酸化炭素量では



※住宅の柱が一本取れるような吉野杉が1年間に吸収するCO2の量 6.55kg-CO2/年

## 2. 項目別の温室効果ガス排出量

### <二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を排出するもの>

「ガソリン使用量」における排出量は、対基準年度比**17.3%の減少**となっています。企画課、介護福祉課等で使用量が増加していますが、総務課、農政課、サービス事業所、地域生活課等で使用量が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**10.2%の増加**となっています。

「灯油使用量」における排出量は、対基準年度比**15.7%の減少**となっています。健康増進課、地域生活課等で使用量が増加していますが、生活環境課、教育総務課で使用量が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**7.0%の減少**となっています。

「軽油使用量」における排出量は、対基準年度比**5.7%の増加**となっています。総務課、地域生活課、商工観光課等で使用量が減少していますが、生活環境課、建設課等で使用量が増加しているため、全体では増加となっています。

なお、前年度比では**7.4%の減少**となっています。

「A重油使用量」における排出量は、対基準年度比**33.4%の減少**となっています。用地課での使用量が減少しているためです。

なお、前年度比では増減なしとなっています。

「LPガス使用量」における排出量は、対基準年度比**244.5%の増加**となっています。消防防災課、子ども子育て課、サービス事業所等で使用量が減少していますが、教育総務課で用量が大きく増加しているため、全体では増加となっています。

なお、前年度比では**3.4%の減少**となっています。

「都市ガス使用量」における排出量は、対基準年度比**20.2%の減少**となっています。教育総務課、子ども子育て課等で使用量が増加していますが、総務課、生涯学習課等で使用量が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**0.8%の減少**となっています。

最も排出量の多い「電気使用量」は、対基準年度比**7.4%の減少**となっています。子ども子育て課、健康増進課、教育総務課等で使用量が増加していますが、総務課、建設課、生涯学習課、学校教育課、地域生活課等で使用量が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**1.6%の増加**となっています。



### <メタン(CH<sub>4</sub>)・一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)を排出するもの>

「公用車の走行」における排出量は、対基準年度比**8.3%の減少**となっています。  
介護福祉課、建設課等で走行量が増加していますが、サービス事業所、地域生活課等で走行量が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**6.7%の増加**となっています。

「浄化槽によるし尿及び雑排水の処理」における排出量は、対基準年度比**30.9%の減少**となっています。

教育総務課、都市計画課等で減少となっています。

なお、前年度比では**17.5%の減少**となっています。

### <ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)を排出するもの>

「自動車用エアコンディショナーの使用」における排出量は、公用車の増加により、対基準年度比**15.1%の増加**となっています。

なお、前年度比では**6.2%の増加**となっています。

## 3. まとめ

第3期実行計画では、温室効果ガス排出量を基準年度の平成29年度と比較して3%以上の削減を目標としていました。

令和4年度の取組結果は、基準年度比で約3.9%の減少となり、目標を達成することが出来ました。

本計画は、令和4年度が計画の最終年度となっており、計画期間中の各年度における取組結果と計画期間中の平均値は下記のとおりとなりました。

第3期計画の取組結果 【削減目標：基準年度比3%減】

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	平均値
削減率	3.9	8.1	6.8	1.7	3.9	4.9

令和3年度を除く各年度及び5年度間の平均値において、目標を上回る結果となっており、目標を達成することが出来ました。

第3期計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の発症等、想定出来ない事態が生じ、施設によっては、活動に制限がかかる等、対基準年度や対前年度での比較が難しい施設も多くありました。

特に令和3年度においては、コロナ禍でありながらも令和2年度に比べ、イベントや行事が多く実施されたことにより、空調使用期間中の換気対策等、従来と違う形での取組みを余儀なくされたため、数値が悪くなるという結果となりました。

そのような状況下において、5年度間の平均値が目標を上回る結果となったことは、行ってきた取組みは、一定の成果を得ることが出来る取組みであったと考えられます。

第3期計画は終了となりますが、引続き市の事務・事業に係る地球温暖化対策の取組みを行っていくため、今後の方針を示し、全職員でより一層取組みを進める必要があります。

これまでの方針や目標、また結果から見えてきた課題等を検証し、新たに「第4期洲本市地球温暖化対策実行計画」を策定し、引続き取組みを行っていくこととします。